

# ワールドマスターズゲームズ2021関西 レガシー基本構想



「2021は、未来を躍動させる。」

公益財団法人ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会

# 目次

計画策定にあたって	2
レガシー創出の基本視点	3
レガシー創出のテーマ	4
1. 個人を彩るレガシー：「スポーツ・健康・生きがい」の活力	5
2. 地域を創るレガシー：「地域・環境・社会」の再創	6
3. 文化を深めるレガシー：「観光・産業・文化」	7
4. 世界を広げるレガシー：「KANSAI・アジア・世界観」の拡大	8
5. 未来を育てるレガシー：「教育・科学・次世代」の進化	9
(参考) 各テーマ・めざすべき方向の取組事例	10
レガシー創出に向けた推進体制	11
レガシー創出委員会 委員名簿等	12
インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざす有識者会議について	15
基本方針	16
有識者会議委員名簿	17

## ワールドマスターズゲームズとは

ワールドマスターズゲームズは、概ね30歳以上であれば誰もが参加できるオープン型の国際総合競技大会です。予選はなく、参加登録すれば出場可能で、競技だけでなく参加者同士の交流やツーリズムの要素を持つ大会です。また、世界最大のスポーツイベントであるオリンピックと連携を深めている世界的に注目されている大会でもあります。2021年の関西大会では、競技者だけでなく誰もがスポーツに親しみ、楽しむことができる場を提供することで、スポーツ・フォー・ライフの実現に寄与します。

※国際オリンピック委員会（IOC）と国際マスターズゲームズ協会（IMGA）では、2016年11月に、「オリンピックアジェンダ2020」に基づいて覚書に調印し、マスターズスポーツへの協力強化と、世界中の成熟した競技者へ定期的なスポーツの実施を推奨することが謳われるなど連携を進めています。

## レガシー基本構想の策定にあたって

2021年に関西で開催するワールドマスターズゲームズは、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで高まったスポーツへの関心を、実際にスポーツを実践する機会を提供することで、スポーツをする人の増加へと繋がることを期待されています。

さらに、この大会は、スポーツ愛好者のための大会に留まらず、子どもから高齢者まで全ての人が多様な形で参画できる“インクルーシブな考え方”を取り入れた大会となることをめざしています。

大会の開催はスポーツの振興のみならず、新たな観光や産業の振興が期待できるなど、大きな経済効果をもたらすとともに、世界に向けて、生涯スポーツの先進地域・関西の存在感を示す絶好の機会になると考えられます。このため、組織委員会では、大会開催後にどのような効果をもたらされるのか、そしてどのような成果を積極的に遺し未来に引き継ぐのか、といったレガシー創造に向けた計画づくりを進めるため、各界・各分野の有識者からなる「レガシー創出委員会」を設置しました。

委員会では、「スポーツ・健康・生きがい」「地域・環境・社会」「観光・産業・文化」「KANSAI・アジア・世界観」「教育・科学・次世代」を創出のテーマとしてレガシー基本構想を取りまとめました。この基本構想では、大会の準備を通じた様々な取組を示すことで、開催府県市、各実行委員会はもちろんのこと、企業や団体、個人に至るあらゆる人々が関わり、参画する大会となるとともに、関西はもとより日本国中に様々なアクションが波及することで、それぞれの地域に根差したローカルレガシーの創出も可能となります。

ワールドマスターズゲームズの理念とその成果が、2025年に大阪・関西での開催をめざす万博へ、そして次世代への明るいレガシーとなり、関西・日本のさらなる発展に繋がることを願います。

## レガシー創出の基本視点

ワールドマスターズゲームズ（以下「WMG」という。）第10回目の節目となる本大会は、WMG史上、初の日本開催、初のアジア開催、そして初の複数都市による広域開催となることから、WMGの新たな歴史を創る大会であるとも言える。

本大会のレガシーの創出にあたっては、過去のWMGの実績を継承するとともに、本大会の特徴を活かし、各分野の関係者が連携してアクション（取組）を展開していくことが重要と考える。そのため下記の項目を基本視点としてレガシー創出の計画づくりを進めていく。

### ➤ 新たなレガシーの創出

過去に開催された大会固有のレガシーを継承するとともに、生涯スポーツの先進地関西での広域開催となる本大会の特徴を活かす

### ➤ 相乗レガシーの協創

ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピックと連携し全体効果を高める

### ➤ ローカルレガシーの創出とグローバルレガシーの誘発

関西各地の多様性と独自性を重視した「ローカルレガシーの創出」をめざすとともに、これら取組を日本国中に広め、アジア・世界に向けて積極的に発信していくことで、世界における「グローバルレガシー」の創出に貢献する

### ➤ レガシーの共同実現

創出されたレガシーが、人や地域にしっかりと根付き未来に引き継がれるよう、その創出にあたっては、多くの個人や関係団体の主体的な参画を促し、連携しながら、様々なプロジェクトを積極的に展開する

### ➤ インクルーシブな考え方の推進〈重点項目〉

個々人の特性に応じて、一緒に楽しみ交流することができるスポーツ大会のモデルケースをめざす



「スポーツ・フォー・ライフの開花」

大会コンセプトの実現

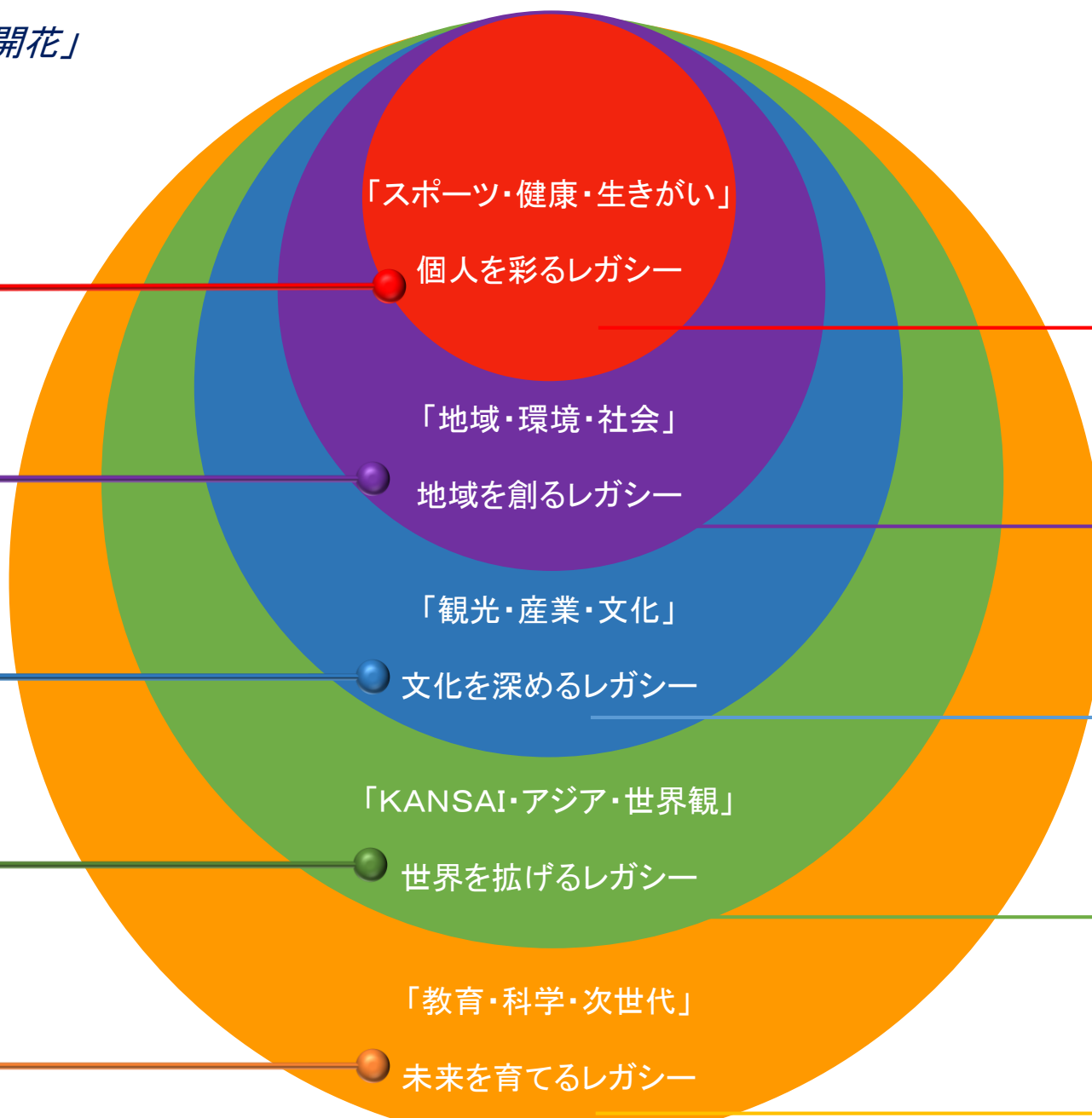
「個性が輝く」  
晴 舞台

「多様性が交わる」  
表 舞台

「日本を魅せる」  
華 舞台

「グローバルを体感する」  
大 舞台

「将来に伝える」  
夢 舞台



● 活力 (バイタリゼーション)

私たち一人ひとりがスポーツを楽しみ、生涯にわたって健康で生きがいに満ちたライフスタイルの実現をめざします。

● 再創 (リノベーション)

この大会を機に、地域に関わるソフト・ハード・人的交流が活性化する取組を実践することで地域の創生をめざします。

● 発揮 (エクスプレッション)

日本・関西が持つ伝統的な文化資源や産業を世界に発信し、さらなる成長をめざします。

● 拡大 (グローバル化)

各地域の国際化の進展とともに、活力ある成熟社会のムーブメントをアジアに拡大し、多様性を有した世界観の発信拠点として貢献していきます。

● 進化 (エボリューション)

次世代に繋げるよう、様々な教育・学術活動の進化をめざすとともに、あらゆる世代と一緒に活動する中で、精神的価値観や人生観にあふれる人材の育成をめざします。

# 1. 個人を彩るレガシー：「スポーツ・健康・生きがい」の活力（バイタリゼーション）

## ビジョン

私たち一人ひとりがスポーツを楽しみ、生涯にわたって健康で生きがいに満ちたライフスタイルの実現をめざします。



「個性が輝く」

晴 舞台

めざすべき方向

スポ  
ーツ

ライフステージに応じた  
スポーツ実施人口の拡大

子どもから高齢者までの各ライフステージにおいて、個人の多様なニーズに対応した「する」スポーツ活動を推進することで、スポーツ・フォー・ライフの実現をめざします。

健康

活動的な健康長寿社会の創造

超高齢社会先進国での開催を契機として、スポーツに親しむ機会を拡充させることで、健康寿命の延伸に繋がり、活力にあふれる健康長寿社会づくりに寄与します。

生き  
がい

生きがいに満ちた  
生涯活躍社会の実現

誰もが自らの可能性と自己実現を追求し、生きがいを感じることができる躍動感にあふれた生涯活躍社会の実現をめざします。



## 2. 地域を創るレガシー：「地域・環境・社会」の再創（リノベーション）

### ビジョン

この大会を機に、地域に関わるソフト・ハード・人的交流が活性化する取組を実践することで地域の創生をめざします。



「多様性が交わる」

表 舞台

めざすべき方向

地域

交流型地域社会の活力再生

大会準備を進める中で、地域の人々に共通の目標と連帯の絆が生まれ育まれることで、人々が集い、快適で豊かなライフスタイルを実現できる地域社会を再生します。

環境

地域環境の質的成熟化

地域に現存する様々な資源価値を再確認するとともに、環境保全、防災機能、ユニバーサルデザインなどを質的に高め、市民生活に永く貢献する住みやすい街づくりを推進します。

社会

広域連携による地域社会の活性化

広域開催のメリットを活かし、地域や組織間の交流を活性化し全国を先導する新たな関西広域モデルを発信します。

### 3. 文化を深めるレガシー：「観光・産業・文化」の発揮（エクスペリメンテーション）

#### ビジョン

日本・関西が持つ文化資源や産業を世界に発信し、さらなる成長をめざします。



「日本を魅せる」

華 舞台

めざすべき方向

**観光** 日本・関西が持つ観光・魅力の表出

自然、歴史、食、文化資源が集積する世界的観光地の魅力を、おもてなしの心を添えて発揮し、日本・関西ファンの増加とインバウンドのさらなる拡大を図ります。

**産業** 既存産業の活性化と新産業分野の成長

スポーツ・健康産業を軸に、大会関連産業への波及効果や国際展開を生み出す新機軸を創出し、国内経済の持続的発展に貢献します。

**文化** 新たな成熟文化の発信

日本・関西が有する多様な文化とマスターズ文化が融合することで、新たな成熟文化を創造し、世界に発信することで「成熟した日本・関西文化圏」を実現します。



## 4. 世界を拓けるレガシー：「KANSAI・アジア・世界観」の拡大（グローバル化）

### ビジョン

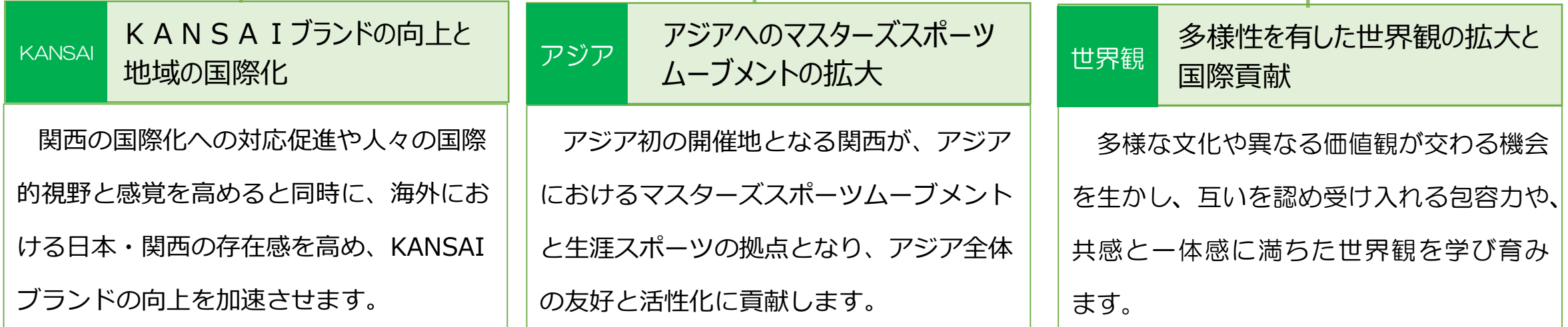
各地域の国際化の進展とともに、活力ある成熟社会のムーブメントをアジアに拡大し、多様性を有した世界観の発信拠点として貢献していきます。



「グローバルを  
体感する」

大 舞台

めざすべき方向



## 5. 未来を育てるレガシー：「教育・科学・次世代」の進化（エボリューション）

### ビジョン

次世代に繋げるよう、様々な教育・学術活動の進化をめざすとともに、あらゆる世代と一緒に活動する中で、精神的価値観や人生観にあふれる人材の育成をめざします。

「将来に伝える」

夢 舞台

めざすべき方向



**教育** 教育活性化によるエンパワーメント

大会開催のためのボランティア教育やホスピタリティ教育を通じて、支援や共感に関わるエンパワーメント（能力開花）を促進し、我が国の共助・支援文化を深化させます。

**科学** 科学振興と  
J A P A N インテリジェンスの発信

大会に関連する様々な学術的連携の拡大を促進し、超高齢社会に対応した科学的イノベーション（新機軸）を加速させ、先駆的な知的財産として世界と未来に発信します。

**次世代** 活力ある人生観の啓発と  
未来像の継承

マスタース世代からユース世代に対して活力を伴う成熟化の価値を伝え、躍動感と生きがいに満ちた人生観を啓発し、未来に向けて継承します。

## (参考) 各テーマ・めざすべき方向の取組事例

### 1. 個人を彩るレガシー

#### スポーツ ライフステージに応じたスポーツ実施人口の拡大

- ・1開催地1チーム、1市町1スポーツ、1企業1スポーツ以上の参加などのPR促進
- ・RWC2019や東京2020大会と連動したキャンペーンの展開
- ・地元アスリートによる開催地アンバサダー支援（開催地ナビゲーター）

#### 健康 活動的な健康長寿社会の創造

- ・スポーツ医や大学と連携した科学的根拠に基づく運動プログラムの開発
- ・オリンピック・パラリンピアンなどを活用したスポーツ事業の開催
- ・経済界と連携した職域における運動習慣の構築
- ・ユニバーサルデザイン運動種目、ニュースポーツのメニュー開発

#### 生きがい 生きがいに満ちた生涯活躍社会の実現

- ・多様なボランティア活動の充実とボランティア・マインドの醸成
- ・シニアボランティアや障がい者ボランティア育成プログラム
- ・ユース時代のスポーツの夢再挑戦イベントの実施
- ・芸術・パフォーマンスなどのマスターズ世代の大会プログラムへの参加演出

### 2. 地域を創るレガシー

#### 地域 交流型地域社会の活力再生

- ・総合型地域スポーツクラブを活用した多世代交流スポーツイベントの実施
- ・企業、学校、大学のスポーツ関連施設開放利用による地元市域との連携
- ・地域コミュニティやボランティアを活用した、おもてなしに向けた取組

#### 環境 地域環境の質的成熟化

- ・スポーツにおける3R（リデュース、リユース、リサイクル）に基づく大会環境の推進
- ・会場地を中心とした既存スポーツ施設のユニバーサルデザイン化、緑地化や芝生化などによる快適・安全性の向上
- ・障がい者が手軽にスポーツができる施設の整備
- ・地域における健康づくりの拠点整備

#### 社会 広域連携による地域社会の活性化

- ・大会開催日をメモリアルとした関西圏における新休暇制度の設定（例：スポーツ、ボランティア休暇制度、関西マスターズデイなど）
- ・広域スポーツ情報に関わるデータベース構築と情報の一元化
- ・ユニバーサルツーリズムの推進などソフト面での普及・促進

### 3. 文化を深めるレガシー

#### 観光 日本・関西が持つ観光・魅力の表出

- ・スポーツメニュー、観光メニュー、文化メニューを掘り起こし、スポーツ×多様な楽しみ方ができる広域観光周遊ルートの創出
- ・スポーツホスピタリティと観光ホスピタリティによるおもてなしコンテンツの開発
- ・大会を活用した国際会議の開催や報奨旅行の誘致など自治体共同によるMICE誘致の促進

#### 産業 既存産業の活性化と新産業分野の成長

- ・スポーツ医科学によるスポーツ・健康関連の新商品やサービスなどの開発
- ・障がい者や中高齢者による生涯競技の参加を可能にするスポーツ用品などのユニバーサルデザインの検討
- ・「ささえる」「みる」「読む」「買う」等の間接的スポーツ消費ニーズに対応する商品やサービスの開発

#### 文化 新たな成熟文化の発信

- ・ポップカルチャー、祭事、アートなど日本の文化に親しみ体験できる大会文化プログラムの創出
- ・万博誘致支援に繋がる関西の健康長寿・健康文化情報の集積
- ・開閉会式におけるスポーツと関西エンターテインメントの融合企画

### 4. 世界を広げるレガシー

#### KANSAI KANSAIブランドの向上と地域の国際化

- ・各府県市の姉妹提携都市を活用した大会プロモーションと交流の進化
- ・小中高、大学による一校・一国応援の展開による異文化教育の促進
- ・多言語対応、無料Wi-Fi、ハラルなど観光客受入環境整備の促進

#### アジア アジアへのマスターズスポーツムーブメントの拡大

- ・スポーツや健康づくりを核とした他分野との国際会議の継続開催
- ・パンパシフィックマスターズゲームズと連携した事業
- ・アジア参加のプロモーションを目的としたフォーラムの検討

#### 世界観 多様性を有した世界観の拡大と国際貢献

- ・関西圏内の海外からの移住者や留学生を中心とした母国応援ボランティア組織の結成支援
- ・オリンピック・パラリンピックの理念の継承
- ・今後のアジア・世界レベルで開催されるマスターズ大会への参加支援とアウトバウンドの促進

### 5. 未来を育てるレガシー

#### 教育 教育活性化によるエンパワーメント

- ・スポーツ指導者のレベルアップ養成と積極的な活用
- ・ユース世代によるスポーツボランティア体験活動
- ・手話通訳、要約筆記、介護など福祉ボランティアの促進
- ・大会インターンシップ制度の導入

#### 科学 科学振興とJAPANインテリジェンスの発信

- ・スポーツ医学などにおける総合型生涯スポーツ科学の情報集約・体系化と社会還元
- ・マスターズスポーツに関する指導スキル向上などコーチング科学の発展
- ・国際的スポーツ大会で初となる広域開催による行政運営・ガバナンスに関する先駆的なマネジメント情報の蓄積化と発信

#### 次世代 活力ある人生観の啓発と未来像の継承

- ・マスターズスポーツをテーマとしたスポーツインテグリティ（健全性・高潔性）教育やスポーツパーソンシップ教育の実践
- ・日本スポーツマスターズとの連携によるスポーツ少年団に対するライフステージに応じたスポーツ教育の検討
- ・競技開催地やセレモニープログラムにおける親子参加プログラムの実施

# レガシーの創出と継承

2019



ラグビーワールドカップ2019

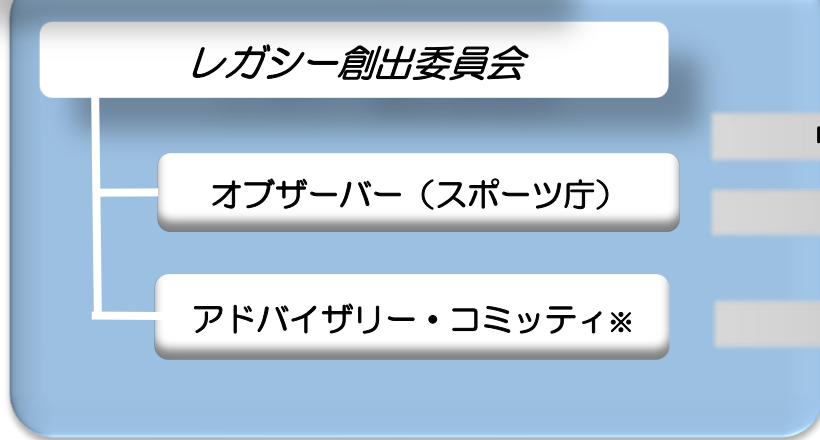
2020



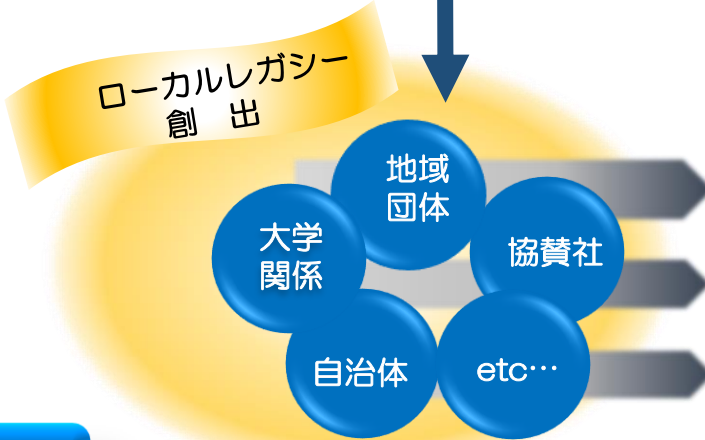
東京2020  
オリンピック・パラリンピック

2021

## 組織委員会



## 府県政令市実行委員会



ワールドマスターズゲームズ2021関西

2025

日本万国博覧会

※ (参考) アドバイザリー・コミッティの役割

- ◇ レガシー創出事業の情報発信
- ◇ 団体等が実施する事業プログラムなどへの活用、組織委員会が実施する事業への協力・参画
- ◇ レガシー基本構想の策定、レガシー創出の方向性や具体的アクションの検討に関する助言

地域文化発信、おもてなしメニュー創出

## レガシー創出委員会委員

(令和元年10月30日現在)

## 委員長

長ヶ原 誠

神戸大学大学院 教授、アジア太平洋・オセアニアマスターズゲームズ 理事、国際マスターズゲームズ協会 アジア理事

## 副委員長

柳本 晶一

一般社団法人アスリートネットワーク 理事長、元バレーボール全日本女子チーム監督

## 委員

(50音順)

朝廣 佳子

株式会社読売ライフ 代表取締役社長、「平城京天平祭」実行委員会委員長、「なら燈花会の会」初代会長

泉 正文

公益財団法人日本スポーツ協会 副会長兼専務理事

大森 正夫

京都嵯峨芸術大学大学院教授、環境芸術学会副会長、環境と芸術 1964TOKYO2020展 実行委員長

水野 明人

一般社団法人関西経済同友会「関西×スポーツ」委員会委員長、ミズノ株式会社 代表取締役社長

河内 幸枝

大阪商工会議所女性会会長、関西商工会議所女性会連合会会長、マロニー株式会社会長

三木 忠一

文化庁地域文化創生本部事務局長

藤田 紀昭

日本福祉大学教授、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長

藤本 繁夫

相愛大学人間発達学部発達栄養学科教授、大阪市立大学名誉教授、一般社団法人大阪府医師会健康スポーツ医学委員会委員長

松永 桂子

大阪市立大学大学院准教授、関西広域連合 広域計画等推進委員会委員

関 総一郎

公益社団法人関西経済連合会専務理事

## オブザーバー

スポーツ庁国際課企画官

星 香里

## アドバイザー・コミッティ

(50音順、平成29年3月31日現在)

(一社) アスリートネットワーク	(公財) 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
関西広域連合	(公財) 日本オリンピック委員会
関西国際観光推進本部	(一社) 日本スポーツツーリズム推進機構
(公財) 健康・体づくり事業財団	プラチナ社会研究会レガシー共創協議会
(公財) 笹川スポーツ財団	(公財) ラグビーワールドカップ2019組織委員会
(公社) 全国スポーツ推進委員連合	





(資料)

インクルーシブな考え方を取り入れた  
大会づくりをめざす有識者会議について

## インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざす有識者会議について

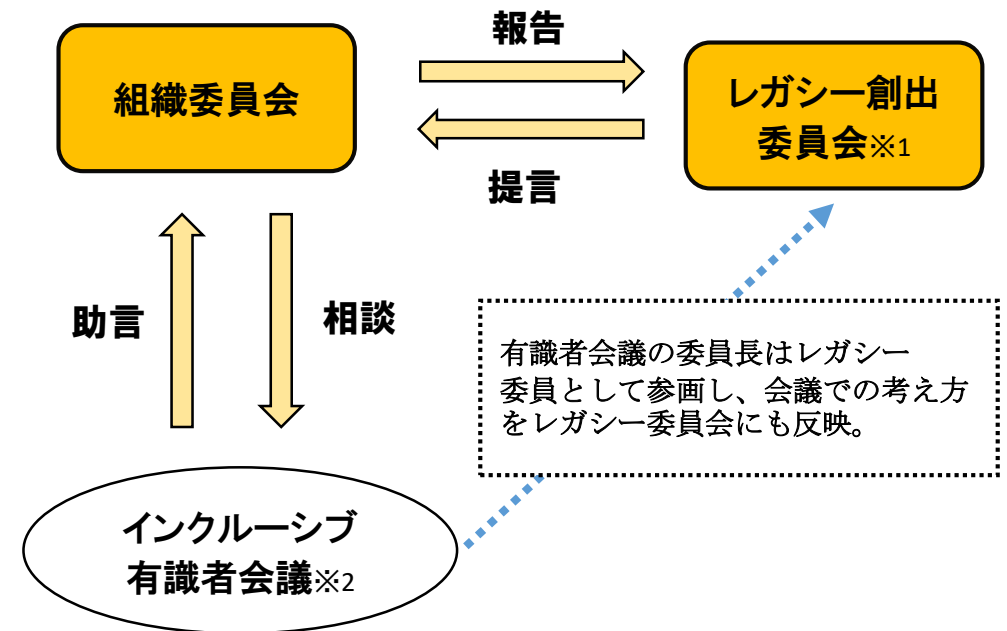
### 設置目的

個々人の特性に応じて、一緒に楽しみ交流することができるスポーツ大会のモデルケースをめざすために、「インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざす有識者会議」（以下「有識者会議」という。）を設置。

組織委員会は有識者会議の意見や助言を参考に、「インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくり基本方針」をまとめ、第一次総合実施計画において方針を決定し、各実行委員会の取組を推進する。

なお、有識者会議の委員長は、レガシー創出委員会に委員として参画し、有識者会議での考え方を委員会においても反映する。

### 体系図



※1 組織委員会の専門委員会として設置  
(組織委員会定款第41条及び専門委員会設置規定第2条による)

※2 組織委員会のアドバイザー機関として設置  
(組織委員会事務局規定第18条第1項による)

## 「インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざす」基本方針

ワールドマスターズゲームズ2021関西では、誰もが参加できる生涯スポーツの国際総合競技大会としての特徴を活かし、一緒に“する みる ささえる”をキーワードの一つとし、誰もが参加できるインクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざしていく。

インクルーシブという言葉には、年齢、性別、能力や障がいの有無等に関係なくという意味が込められており、個性に応じて様々な人が、大会を通じて楽しみながら生きがいを持つことができる場を創出することで、スポーツを通じた共生社会等社会課題の解決に寄与するとともに、インクルーシブな考え方や仕組が大会終了後にもレガシーとして引き継がれることをめざして、以下の基本方針に基づき取組を推進する。

### 競技会の運営と実施

障がい者が参加することができる公式競技を確定するとともに、デモンストレーション競技において個性に応じて参加できる競技の実施や、競技会の中で発表の場を創出し、一緒に、競技、観戦、交流ができる機会の創出をめざす。そのために、各会場において具体の検討を進める。

#### <取組例>

- 多様な参加者が競技会場で交流できる場の創出
- 同じフィールドでプレーを実施し、共に競い合える場の創出
- パラリンピック種目などの実施
- 障がい者競技の審判員の育成促進
- 競技会のプログラムの中で、競うのではなく発表をする場の創出
- 年齢、性別、能力や障がいの有無等に関わらず参加できるデモンストレーション競技の実施

### 大会の企画や運営

一緒に“する みる ささえる”をベースに、個性に応じて大会に参加できることを基本方針とし、様々な参画者が関与できる大会運営をめざす。

#### <取組例>

- 大会を通じて様々な人が交流できる場の創出
- 開閉会式などの式典で様々な個性が融合したパフォーマンスを検討
- 障がい者のボランティアへの積極的な参加啓発
- 企業や関係団体の障がい者ボランティアへの参加を促進し、交流の場を設ける事の検討
- 障がい者の参加に応じた配慮や心配りができる大会づくりの推進
- 海外の障がい者スポーツ競技者への積極的な広報

## インクルーシブな考え方を取り入れた大会づくりをめざす有識者会議委員

(順不同)

藤田紀昭	〈委員長〉 日本福祉大学教授、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会技術委員会副委員長
金山千広	〈副委員長〉 立命館大学教授、日本障がい者スポーツ指導者協議会研修部員
大日方邦子	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会副会長
櫻井誠一	日本パラリンピック委員会副委員長、一般社団法人日本身体障がい者水泳連盟常務理事
外田順一	特定非営利活動法人YASUほほえみクラブクラブマネジャー
(一社) アスリートネットワーク	理事・役員